

特集

日食観測学習会に寄せられた 金環日食アンケートの集計と結果

福島 慶（日食観測連絡会）

1. 日食観測連絡会について

これまで、日食観測連絡会では、2012年5月21日の金環日食にむけ、次のような活動をホームページ上で（日食観測の学習 <http://www.astor-eclipse.com/eclipse-learning/index.html>）行ってきました。

金冠日食学習ワークシート、指導書…日食の時に起こるさまざまな現象とその観測方法について、児童・生徒に分かりやすいように書かれた、『金環食学習のワークシート(手引き)』や、各学校で児童・生徒を直接指導する教職員の皆様に使っていただける、観測学習の手引きの『解説書』や『クイックガイド』を提供しています。

気象観測発表会…児童・生徒が自ら積極的に観測、記録を残すことを目的とし、小学校や、観測グループごとに観測報告する機会を設けています。

金環日食観測証明書…観測者が日食をどのようにみたくを問うアンケートを行いました。項目は年齢、観測場所、天気、観測方法、リングを見たかどうかについてで、答えると、名前入りの観測証明書が発行できます。



図1 観測証明書

今回は、金環日食観測証明書のアンケート集計結果を述べていきます。

2. 都道府県別の観測者数

まずは、都道府県別の観測者がどれほどだったかのデータを示します。

観測された主な地域を詳しく述べると、東京では、足立区、三鷹市、杉並区、八王子市、新宿区、千葉県では千葉市、鎌ヶ谷市、柏市、神奈川県では横浜市、川崎市、相模原市 という結果になりました。

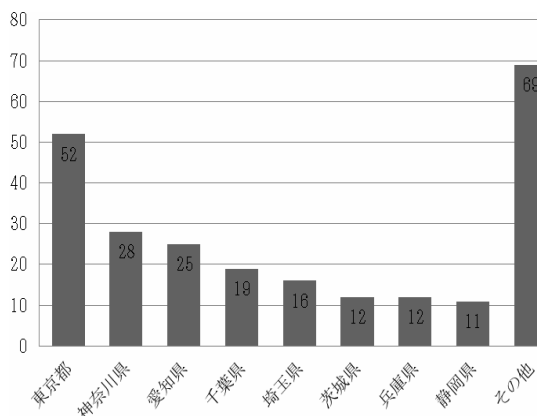


図3 都道府県別観測者内訳

また、これらのデータを日本地図上に示したのが図3です。

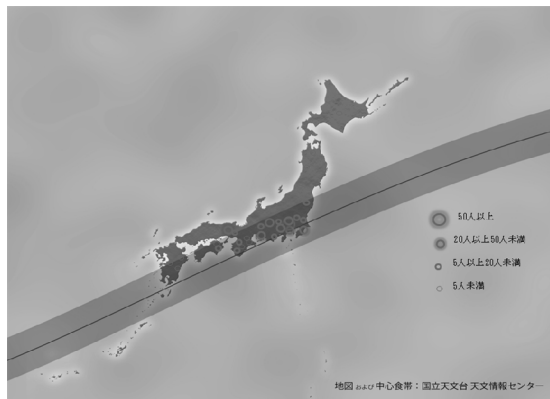


図3 観測者内訳

これより、日食帯に入っている地域の中でも特に人口の多い都心部での観測が盛んに行われたことがわかります。

3. 観測者の年齢分布

図4より、0～10歳と、41～50歳が特に多くなる結果となりました。この中の一部の方々は家族で観測を行ったのではないかと予測できます。

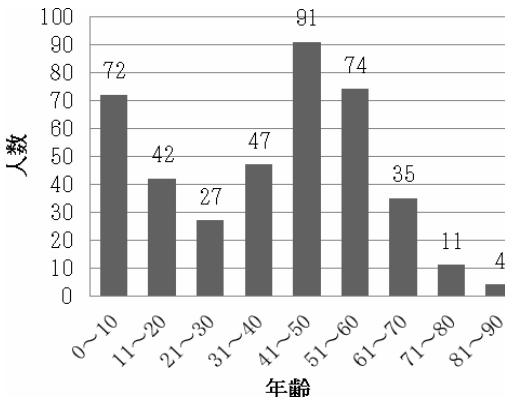


図4 観測者の年齢分布

また、0～20歳の分布を詳しくしたものが図5です。小学校の高学年が全体の5割を占める結果となりました。

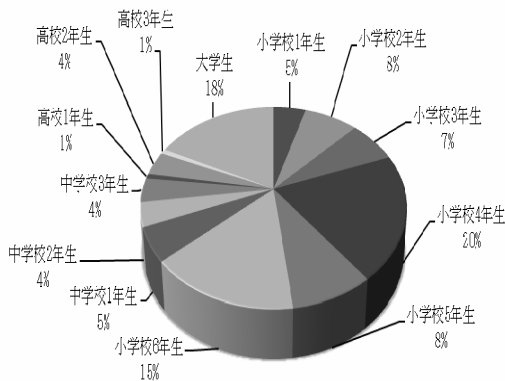


図5 学生の内訳

4. 観測場所、観測方法

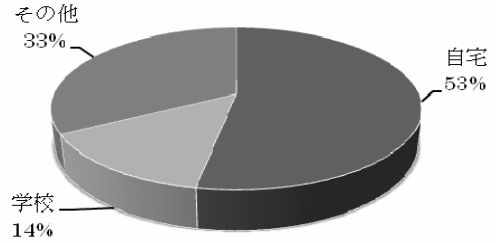


図6 観測場所の割合

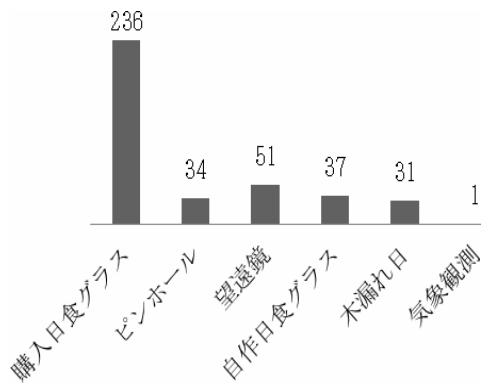


図7 自宅から観測した人の観測方法

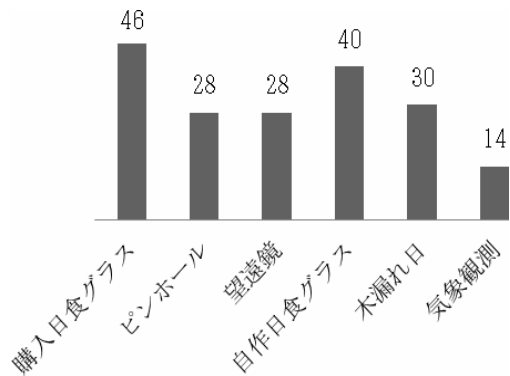


図8 学校から観測した人の観測方法

図6のその他には、公民館、パーキングエリア、海岸、天文台、公園、屋上、河川敷、幕張メッセ、駅（通勤途中）、会社等の回答が

ありました。金環日食を見るために、準備をしっかりと行った方が多いようで、日食グラスを始め、望遠鏡や、ピンホールで観測した方が多く居ました（図 9）。自宅で見た方は、日食グラスでの観測が目立ちました。この結果から、金環日食に興味を持った一般の方が多く居たということが言えます（図 7）。また、学校では様々な方法を多く試したという結果となりました（図 8）。

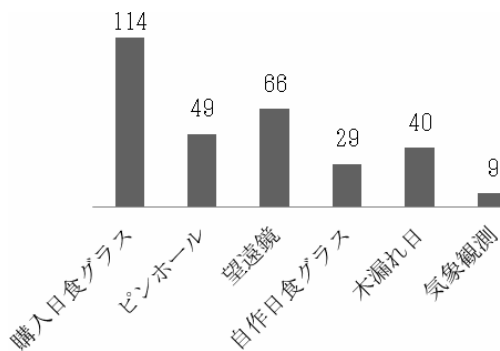


図 9 その他から観測した人の観測方法

また、その他の観測方法としては、カメラの望遠レンズ、動物の行動の変化、双眼鏡、手鏡、日食下敷きなどの回答もありました。

5. リング観測者の割合

最後に、リングを観測した人がどのくらいいたかをグラフに示しました。

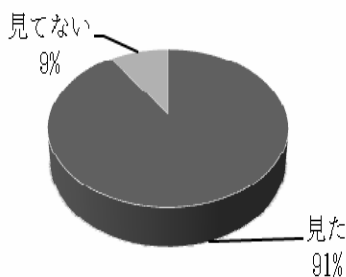


図 10 リング観測者の割合

リングを見たかという問いに対して、完全なリングでなくてもリングを見たか答えた方もいらっしゃるかもしれないので、この結果は、日食帯におり、リングが見れた人の数を数えているものとは言えませんが、リングの形に近いものを見た人が 90%いたということになります。

6. おわりに

今回のアンケートでは 1000 人以上の方に回答して頂き、2012 年 7 月現在もまだ報告があります。観測した方にとって、具体的な記録に残すことによって、記憶に残り、良い思い出作りが出来たのではないかと思います。

今後は、食の名のつく天文現象の存在を子ども達に教え、観測法や理論等を指導していきたいと考えています。

福島 慶

foo@docoka.ac.jp

* * * * *